

前回部会における質問等について

1 前回未回答分の質問等について

【質問要旨】

○河合委員

資料5の4ページ、「道徳教育の根本的改善」と「地域人権啓発活動活性化事業」は具体的にどのような取組を行ったのか知りたい。

【回答要旨】

●「道徳教育の根本的改善」について

教員を対象とした研究協議会を年に2回開催するとともに、授業改善のポイントを明確にした授業動画や授業づくりハンドブックを作成し、道教委のWebページに掲載して周知することにより全道への普及に取り組みました。

(教育庁 学校教育局 義務教育課)

●「地域人権啓発活動活性化事業」について

人権に関する講演会・研修会の開催（インターネット適正利用のための講演会、地域における虐待の未然防止等の対応を中心としたシンポジウムなど）や、スポーツ組織と連携した人権作文コンテストの実施、啓発チラシや物品の作成・配布を行いました。

(環境生活部 くらし安全局 道民生活課)

【質問要旨】

○河合委員

資料5の6ページ、いじめの認知件数について、文科省のいじめの解消の定義に沿っているのかどうか読み取れない。解消状態が3か月間続いているものが、いじめの解消の定義だったように思われるが、その時点で（学校側からなのかどうかかわからないが）報告がされているものなのか。

【回答要旨】

本指標は文科省調査に基づく数値を記載しています。当該調査では3月31日を基準日としており、基準日時点で、学校いじめ対策組織において、いじめ解消の基準と照らして、解消している事案数を報告しております。

(教育庁 学校教育局 生徒指導・学校安全課)

【質問要旨】

○木村委員

少年非行等の状況について、(総合)振興局ごとの地域の施策が道の施策とリンクして動いていくことを考えると、道全体の数値だけを出すのではなく、警察署単位のデータを合算するなどして(総合)振興局単位の数値を出すことはできないのか。

【回答要旨】

(総合)振興局をまたがる区域を所管している警察署があるほか、弊課で参考としている少年非行の統計について道警に確認いたしましたところ、現在公表されている数値はあくまで各警察署で検挙又は補導した少年の人数によるものであり、検挙又は補導した少年が必ずしも各警察署の管内居住者ではないとのことでしたので、(総合)振興局単位の数値を算出することは困難です。

(保健福祉部 子ども政策局 子ども家庭支援課)

【質問要旨】

○谷渕委員

男性の育児やファミリー・サポートなどの、親に関するようなことというのは、どれほどのアンケート回収率になっているのか。

【回答要旨】

●男性の育児について

令和5年度 就業環境実態調査では、1,400の事業所に調査票を送付し、384の事業所から回答があったため、回答率は27.4%となっております。

(経済部 経済企画局 経済企画課)

●ファミリー・サポートについて

ファミリー・サポート・センター(以下「ファミサポ」という。)は市町村が設置していることから、ファミサポにおける保護者向けアンケートの実施については、各施設の判断によって実施するものであり、実施の有無及び回収率については把握しておりませんが、ファミサポ職員等との意見交換の場などを通じ、必要に応じて把握してまいりたいと考えております。

(保健福祉部 子ども政策局 子ども政策企画課)

2 その他ご意見等への対応状況等

【対応状況等】

以下のご意見等につきまして、担当部局等へ伝達を行いました。

【意見要旨】

○河合委員

- ・目標値を100%としているものや、目標値と現状値のギャップが大きいもの、設定時よりも現状値が低いものなど、目標値の設定自体に無理があったのではないかと懸念している。
- ・設定時よりも現状値が低いものについては、どういう理由でそのようなになっているのか、分析が必要と考える
- ・いじめの解消について、「解消しているもの」の定義をはっきりさせると良い
- ・目標を「認知した全てのいじめが解消されることを目指す」としている部分、文章表現で設定するのではなく、具体的な数値で設定する方が良いのではないかと懸念している。

○原委員

- ・子どもの問題が悪化していると思うので、道警から被害等について報告やお話をしてもらいたい。一つの手であるし、子どもの相談業務や教育の現場もかなり大変なところがあると思われ、見落とされている問題があるのではないかと懸念しているため、子どもを守るように考えた方が良い。

【対応状況等】

以下のご意見等につきましては、次期計画において検討します。

【意見要旨】

○河合委員

- ・資料 12 の 3 ページの、いじめ発生の原因についての文言はこのままでいくのか。「いじめ」「不登校」「自殺」などの項目について、この 5 年間でわかってきていることが反映された表現になると良い。

○山田委員

- ・地域の人材を育てる、特化したカウンセラーを小中学校や幼稚園に配置する必要があると思うので、人材育成の文言を計画に書いてほしい。
- ・動画配信サイトで面白いと言われている動画が、ある人からするといじめだったりするので、ネットの情報をもう少し精査してほしいし、そういう指標の設定があっても良いと思う。
- ・子ども自身に向けて、平等や尊厳、人権等について、学校の授業のようなことを、行事等含めどこかに組み込むようなシステムを考えてほしいため、その方向性をどこかに入れられないかと思う。

○内山委員

- ・問題のトピックごとの対処に限らず、実施体制や支援体制のような、トピックを横断した全体に関わるような問題、総論的なところも入っていくと良いと思う。

○木村委員

- ・子ども大綱なくして次期計画の議論はできず、個別の問題も大事だが、総体として何なのかが重要なのではないか。子ども大綱は個人の主権や人権の問題が総体と読めるので、そういうような訴え方ができると良い。
- ・時代の動きを考えると、次期計画の期間が 5 年間というのは長すぎないか。

○今西委員

- ・北海道は広いので、自治体ごとに状況が違うということを見据えたつくりにしておき、各自治体に下ろしたときに、各自治体が出出してやりたいことを考えられるようにできると良い。
- ・自治体によって考えなければならない課題が様々あるため、こんな子もいます、こんな子も支援しましょう・支援できますと示すところがあると良い。